

●海軍短艇敷物規程

大正十三年四月十四日(達)(三九)

改正 昭和三年一月三號

海軍短艇敷物規程

第一條 海軍短艇敷物ハ左ノ三種トス

特別敷物

將官用敷物

士官用敷物

第二條 特別敷物ハ天皇又ハ皇族短艇ニ乗御ノトキ之ヲ使用ス

前項ノ規定ハ外國ノ元首及皇族ニ付之ヲ準用ス

第三條 將官用敷物ハ海軍將官又ハ司令官タル海軍大佐短艇ニ

乗ルトキ之ヲ使用ス

第四條 士官用敷物ハ海軍士官(將官及司令官タ
ル大佐ヲ除ク)、特務士官又ハ海

軍高等文官短艇ニ乗ルトキ之ヲ使用ス

前項ノ規定ハ海軍准士官ニ付之ヲ準用ス

第五條 短艇敷物ハ艇内坐席ニ被覆シテ之ヲ使用ス但シ櫓艇ニ

ハ之ヲ使用セサルヲ例トス

第六條 第三條及第四條ノ規定ハ海軍豫備士官、豫備特務士官

豫備准士官又ハ帝國陸軍武官ニ付之ヲ準用ス

前項ノ外必要ト認ムルトキハ内外國文武官其他ニ付之ヲ準用

スルコトヲ得

第七條 各短艇敷物ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

(理由)

現規定制定以來ノ實驗ニ徴シ海上ニ於ケル敬禮ノ疎雜ニ流レ
ントスル弊ヲ防止スルタメ將官用敷物ヲ別ニ制定スルノ必要

アルニ依ル

附記、艦長用敷物ノ復活ニ關シテハ研究ノ結果別紙ノ通り相當困難ナル事情アルニ付當分保留ノコトニ致度

(別紙)

艦長敷物復活ノ件

大正十一年九月改正ノ現規定ニヨリ該敷物廢止以來ノ實驗ハ海上ニ於ケル敬禮ノ疎略及艦長ニ對スル特殊待遇ノ必要上之カ復活ヲ必要トスル說アリ一應尤ノコトナルモ此レカ實行ニ當リテハ左記ノ如キ頗ル錯綜セル事情アルヲ以テ不取敢將官用敷物ノミヲ復活シ皇族用敷物ハ其名稱ヲ特別敷物ト改稱シ現行通りノ制式ノ儘トシ艦長用敷物ノ復活ハ當分保留研究スルコトニ致度

記

一、艦長用敷物復活說ハ現行規定改正ノ根本主旨タル官階ヲ無視シ兵科別ニ立脚スル差別待遇ノ不條理ニシテ而モ海上ニ於ケル短艇敬禮法ノ簡單統一ニ改正セラレタルニ伴ヒ之レニ順應スルノ要アリトスル主要要件ヲ全然無視スルモノニシテ逆轉餘リニ朝令暮改ノ譏ナキ能ハス寧ロ敬禮疎雜ニ對スル防止策ハ他方面ノ研究ニ待ツヲ至當トセザルカ

一、舊規定ノ艦長敷物ノ使用ハ其ノ範圍專ラ職務上ノ特權ニ附與セラレタルモノニシテ官階及兵科別ニ關シ沒交渉ナリシカ爲遂ニ問題トナリ改正セラレタルモノニシテ今之レヲ復活スレハ忽チ同様ノ問題ヲ惹起スルハ疑フノ餘地ナシ

一、若シ徹底的ニ各科ヲ通シ官階ヲ以テセンカ其ノ使用範圍廣汎ニ涉リ實施困難ナルヘシ

一、又兵科別ヲ平等視シ職及官階ノ兩者ニ應シ使用範圍ヲ規定

スルハ頗ル複雑ニシテ而モ「デリケート」ナル待遇問題ナルガ故ニ實施上遂ニ拾收ノ途ナキニ立至ラサルノ憂ナキ能ハス

一、結局指揮權ノ認ムル處ノ旗章ニ附帶シ「ペンデント」ヲ艇首ニ立テ公式乘艇ノ場合ノミニ限ルノ外ナシ斯クテハ識別上明瞭ナル旗章ノ存在セル以上敷物ノ區別ヲモ必要トスル理由ナキニ至ル

昭和三年一月十日(達)

海軍短艇敷物規程中左ノ通改正ス

第一條中「三種」ヲ「四種」ニ改メ將官用敷物ノ次ニ「艦長用敷物」ヲ加フ

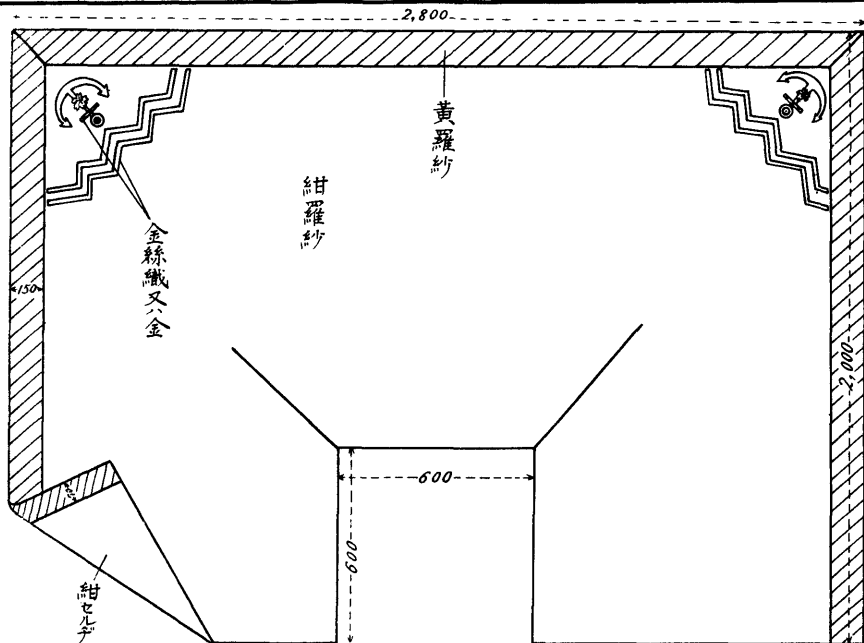
第四條ヲ第五條トシ以下順次繰下グ

第四條 艦長用敷物ハ艦長、驅逐隊司令、潜水隊司令、掃海隊司令、特務艦長、部隊長及參謀長(第三條ノ規定ノ適用ヲ受クル者ヲ除ク)短艇ニ乗ルトキ之ヲ使用ス

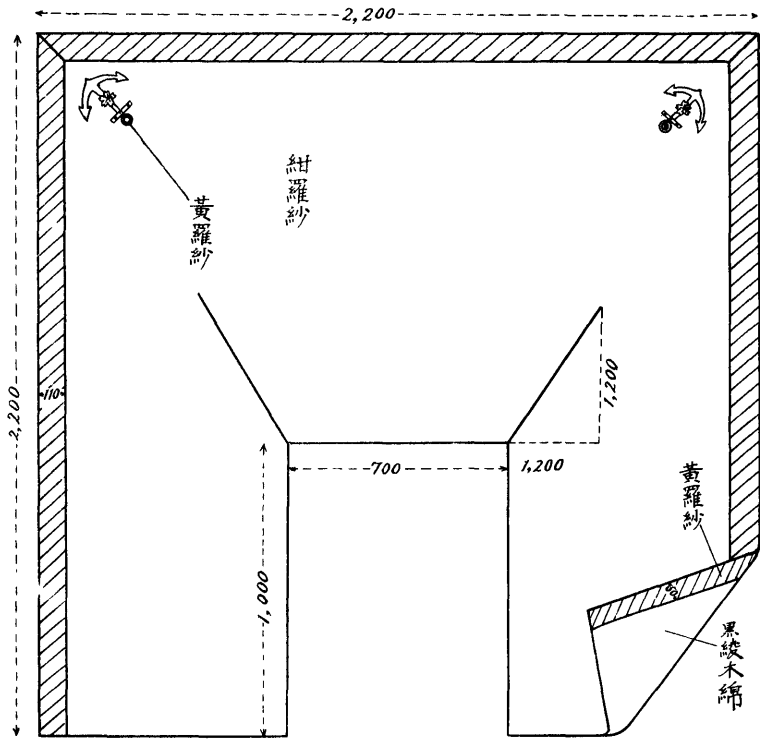
第四條中「(將官及司令官ヲ)」ヲ「(第三條及第四條ノ規定ノ適用ヲ受クル者ヲ除ク)」ニ改ム

第六條中「第三條及第四條」ヲ「第三條乃至第五條」ニ改ム

短艇敷物制式
特別敷物

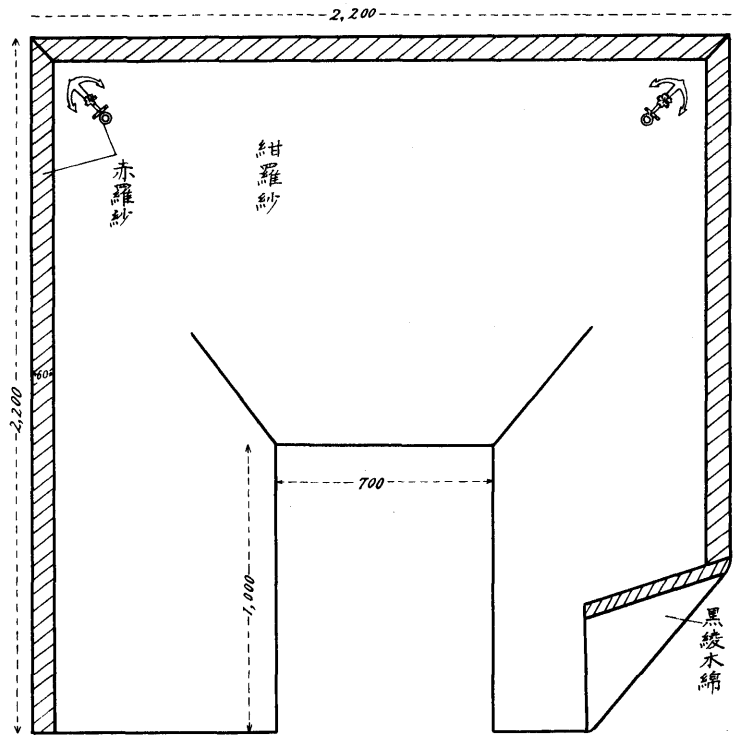


將官用敷物



特務艇 雜役船 除籍艦船 海軍短艇敷物規程

士官用敷物 (大)



同上 (小)

